

★安全・安心な生活と ICT 研究会 (ICTSSL)

専門委員長 岡田和則 副委員長 田村 裕・中野敬介

幹事 川上 博・井ノ口宗成 幹事補佐 佐藤翔輔・和田友孝・宮北和之

★情報ネットワーク研究会 (IN)

専門委員長 山岡克式 副委員長 岸田卓治

幹事 木村達郎・松本延孝 幹事補佐 唐沢裕明・植田一暁

◎IN 研究会は参加費が必要になりますので、下記を御参照下さい。

http://www.ieice.org/cs/jpn/kensen/special/e_gihou/e_gihou.html

◎本研究会は ICTSSL 研究会と IN 研究会の併催です。研究会資料は各研究会ごとに発行されます。

日時 10月10日(火) 13:00~18:05

11日(水) 10:30~12:10

会場 静岡県地震防災センターないふるホール(静岡市葵区駒形通5-9-1。JR静岡駅よりバス(しずてつジャストライン)西部循環駒形回り線:駒形五丁目下車,徒歩2分。中部国道線/丸子線/丸子小坂線/牧ヶ谷線/東新田下川原線:本通十丁目下車,徒歩5分。http://www.justline.co.jp/topics/topics_image/topics674-01.pdf TEL {053} 478-1526 井ノ口宗成(静岡大))

議題 防災, 一般

10日

ICTSSL-1. アプリケーションログに基づく被災者生活再建支援システムの利用ニーズ分析—2016年熊本地震の被災自治体を事例として— ○井ノ口宗成(静岡大)・田村圭子・辻 道代(新潟大)・林 春男(防災科学技研)

ICTSSL-2. 被災者生活再建支援にかかる業務量の基礎分析—2016年熊本地震を事例として—

○清水啓佑・井ノ口宗成(静岡大)・田村圭子(新潟大)

ICTSSL-3. 緊急救命避難支援システムにおける避難誘導のための屋内エリア情報取得方式

○松本航輝・小牧 健・上村和暉・中嶋真悟・和田友孝(関西大)・大月一弘(神戸大)

IN-4. 柔軟なIoTエッジコンピューティングアーキテクチャの提案とエネルギー管理への応用

○荻野 正(明星大)・北上眞二(早大)・菅沼拓夫(東北大)・白鳥則郎(中大)

IN-5. 悪意を持つユーザの行動がDTNシステムに与える影響の検証

○三賀本直也・宇都宮陽一・奥田隆史(愛知県立大)

IN-6. フローレベルルーティング方式におけるトラヒックの種類を考慮したオフロード手法

○宇田川雄貴・水野 修(工学院大)

IN-7. [招待講演] 統合的な危機対応マネジメント支援に向けた取組み 爰川知宏(NTT)

ICTSSL-8. [特別講演] NTTグループの災害対策について—つながらない, を, つくらないために—
花石啓介(NTT)

11日

ICTSSL-1. 多地点からの多視点映像・音声IP伝送のための視点配信方式のQoE評価

○中垣内雅也・布目敏郎(名工大)

ICTSSL-2. ネットワーク化された情報フローティングに関する考察 ○宮北和之・中野敬介(新潟大)

ICTSSL-3. 津波避難シミュレーションを用いた追従性心理の検証

○玉井拓之・山崎達也(新潟大)・大和田泰伯・佐藤剛至(NICT)

ICTSSL-4. 任意の時間幅に対する公開気象データからの極値抽出ツールの開発

○倉田駿太・井ノ口宗成(静岡大)

◎10日研究会終了後,懇親会を予定していますので,奮って御参加下さい。

☆ICTSSL研究会今後の予定 []内発表申込締切日

2018年1月25日(木),26日(金) 機械振興会館[未定] テーマ:学生セッション, 一般

[問合先]

井ノ口宗成(静岡大)

TEL {053} 478-1526

E-mail: inoguchi@inf.shizuoka.ac.jp

☆IN 研究会今後の予定 [] 内発表申込締切日

11 月未定 [未定]

12 月 14 日 (木), 15 日 (金) 広島市大 [未定] テーマ: 性能評価とシミュレーション, 信頼性技術, スループット
やトラヒックの計測, 品質 (QoS) 制御, 輻輳制御, トラヒック・フロー制御, オーバレイネットワーク・P2P,
IPv6, マルチキャスト, ルーティング, DDoS 及び一般

【発表申込先】 下記研究会発表申込システムからお申込み下さい.

<http://www.ieice.org/jpn/ken/kenmoushikomi.html>

【問合せ先】 IN 研究会幹事及び幹事補佐

木村達郎 (NTT)・唐沢裕明 (NTT)

E-mail : in_ac-kanji-2007@mail.ieice.org

◎IN 研究会ホームページ

<http://www.ieice.org/cs/in/jpn/>

◎なお, 原稿の締切日を過ぎますと技報への掲載ができなくなり, 原稿なしでの御発表となります. プログラム確定後の発表キャンセルは原則できませんので御注意下さい.